

【書評】 中俣尚己著『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』  
(くろしお出版、2014)

## 文法コロケーションによる 例文作成のためのガイドブック

山内博之

本稿は、中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』(以下、「本書」と記す)に対する書評である。中俣氏の本書執筆の動機は、「はじめに」によれば、日本語教師が例文を作成する際に役立つ何がほしいと思ったことにある。そのような問題意識がBCCWJと出会って結実し、くろしお出版からハンドブックとして刊行されることとなった。ちなみに、BCCWJとは、国立国語研究所が作成した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の英語名[Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese]の略称である。

本書は、日本語学習者にとって必要不可欠な93の文法項目について、主に「前にくる動詞」との共起関係をBCCWJを用いて調査し、その結果を記したものである。例えば、「てみる」の項目では、前にくる動詞は「考える」が最も多く、BCCWJでの出現数が4,605で、全体の7.50%を占めていることが示されている。「考える」に続く第2位は「する」であり、以下、「見る」「聞く」「やる」「行く」「調べる」「言う」「試す」「作る」というように10位まで示されている。

さらに、日本語教科書7冊の例文の調査も行われており、「てみる」の例で言えば、「考える」「見る」「聞く」「行く」は教科書の例文でもよく使用されているが、他の6つの動詞は、教科書の例文ではあまり使用されていないという情報も得られるようになってきている。そして、BCCWJの出現数では10位までには入っていないが、教科書の例文ではよく使用されているという動詞も、出現数順に10語が示されている。「てみる」については、「使う」「読む」「食べる」「出る」「頼む」「説明する」「着る」「はく」「来る」「かぶる」が、その10語である。

中俣氏が述べているとおり、本書は、新人の日本語教師が例文を作る際には非常に便利である。評者も勤務校では日本語教員養成に関わっているが、実際、学

生たちに「『てみる』の例文を作りなさい」と言っても、なかなか例文を作ることができない。当該の文法項目のみを与えても、やはり、例文を作成するのは難しいのであろう。しかし、「『考えてみる』を使った例文を作りなさい」と言えば、作ってくれそうな気がする。ポイントは、例文を作る際のキーとなるフレーズの中に、機能語のみでなく実質語も入れるということではないかと思われる。「うどん」「机」「走る」「読む」などの実質語は、容易にその意味を思い浮かべることができるが、「てみる」「ても」「のだ」などと聞いても、意味するものを思い浮かべることが困難であり、だから、例文が作成しにくいのではないだろうか。

一般の日本人には意味を思い浮かべることが困難な機能語に、BCCWJでの出現頻度という確かな根拠に基づいて実質語を加えてキーとなるフレーズを作り、例文を作りやすくしたこと、それが、日本語教育に対する本書の第一の貢献である。学問的な文脈においては、BCCWJというデータに基づいて、機能語と実質語の橋渡しをしたと位置づけることができる。

本書の「前にくる動詞」のリストを使って実際に例文を作成してみると、いろいろ興味深いことに気づく。例えば、BCCWJでの出現頻度が10位までの動詞を使って「てはいけない」の例文を作ってみると、まず、「する（1位）→カンニングをしてはいけない」「言う（3位）→友達の悪口を言ってはいけない」「やる（4位）→動物にエサをやってはいけない」「買う（6位）→A社の製品を買ってはいけない」「使う（7位）→サッカーをする時は手を使ってはいけない」「行く（8位）→危ないところに行ってはいけない」「出す（10位）→大きな声を出してはいけない」というように、いかにも初級の授業で使えそうな例文ができる動詞があることがわかる。

一方、「忘れる（2位）→多くの人がまだ仮設住宅にいることを忘れてはいけない」「なる（5位）→わがままな人間になってはいけない」「ある（9位）→間違いがあってははいけない」は、あまり初級向きであるという感じがしない。話題が抽象的になってしまう、あるいは、もう2～3文足して何か述べないとまとまりのある談話になっている感じがしない、というようなことが、例文を難しく感じさせている原因ではないかと思われる。つまり、同じ用法の同じ文法項目であっても、前にくる動詞との組み合わせによって、作られる例文の難易度が変わり得るということである。

最後に、本書を読む日本語教師たちにメッセージを一言。本書には、BCCWJ

のデータに基づいて中俣氏が作成した、わかりやすく使いやすい例文も掲載されている。しかし、現場の日本語教師たち、特に新人の教師や教師の卵たちには、それを安易に使ってもらいたくはない。まずは、「前にくる動詞」のリストを見て、そのすべての動詞について、自分で例文を作ってみてほしい。教育もしくは研究に関する気づきが、きっと何かあるはずである。

(実践女子大学教授)